



2023年3月期第2四半期決算説明資料



2022年10月28日
メタウォーター株式会社

<セグメント情報>

- プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業):国内EPC事業、海外事業
当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。
- サービスソリューション事業(略語:SS事業):国内O&M事業、国内PPP事業
当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転・維持管理(保守・点検)、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<語句説明>

EPC	Engineering, Procurement and Construction:設計・調達・建設
O&M	Operation and Maintenance:運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership(公民連携):公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative:公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate:公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の認可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

I 2023年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2023年3月期通期連結業績予想

III 2023年3月期第2四半期決算概要

I 2023年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2023年3月期通期連結業績予想

III 2023年3月期第2四半期決算概要

'23/3期2Q 決算ハイライト（連結）

* 受注高

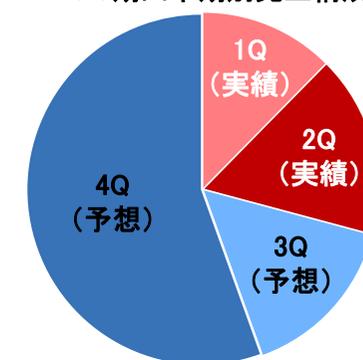
EPC、海外、O&M、PPPの各事業ともに**前期実績を上回った**。

(参考) 受注残高：'22/3期2Q末1,959億円 ⇒ '23/3期2Q末 2,246億円(+286億円)

* 売上高・利益

当2Qは、原材料価格上昇の影響を受けたものの、北米子会社が順調に推移したほか、PPP事業において株式会社みずむすびマネジメントみやぎを連結したことなどにより、**売上高、各利益ともに前期を上回った**。なお、経常利益には円安影響による為替差益 約10億円を含む。

'23/3期四半期別売上構成



注) 当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上、利益が4Qに著しく偏るため、例年 2Q累計期間の業績は低い水準となる傾向があります。

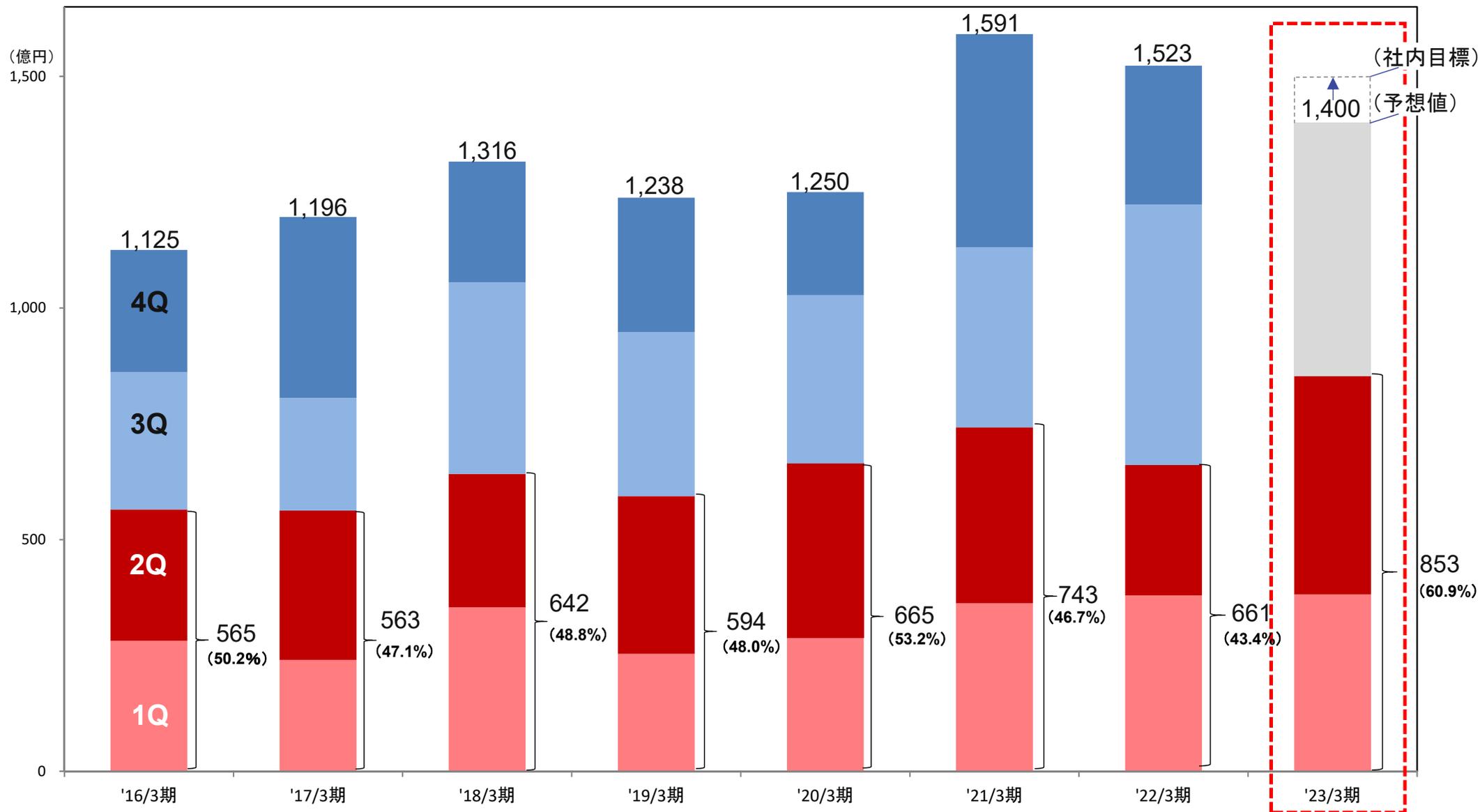
(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	第2四半期末 配当金 (円)
'23/3期 2Q実績	853 前期比:+192 +29.0%	467 前期比:+72 +18.4%	-30 前期比:+2	-19 前期比:+12	-16 前期比:+8	20
'22/3期 2Q実績	661	395	-32	-31	-24	20

※10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

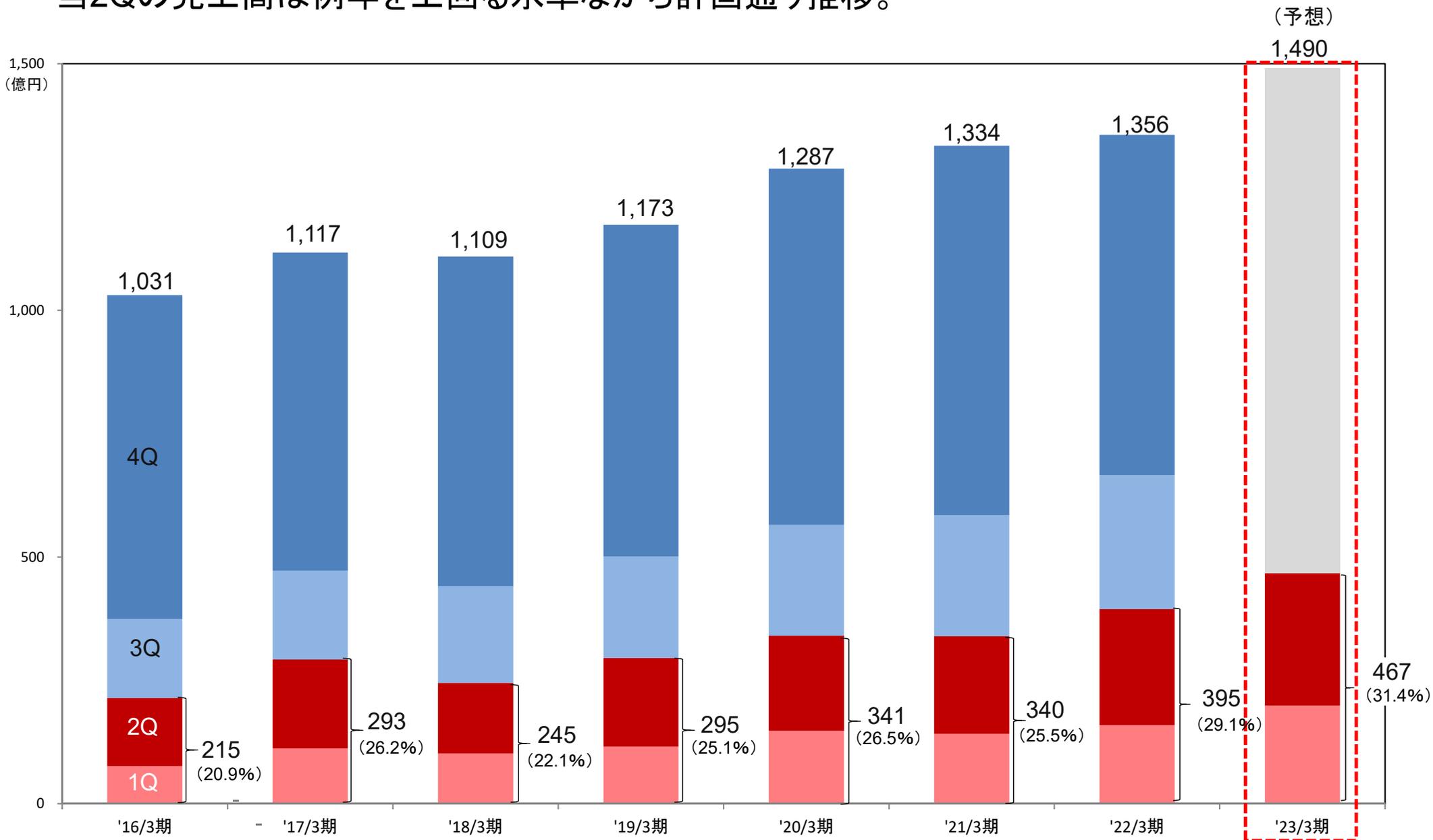
'23/3期2Q 受注高推移 (連結)

当2Qの受注高は例年を上回る水準。



'23/3期2Q 売上高推移（連結）

当2Qの売上高は例年を上回る水準ながら計画通り推移。



事業活動

- * 「アクアポニックスパークおおふなと」が完成(7月) ※ 詳細はP9
- * 「下水高濃度返流水の省エネ型窒素除去装置」が一般社団法人日本産業機械工業会第48回優秀環境装置表彰「経済産業省 産業技術環境局長賞」を受賞 (7月)
- * 世界最大のセラミック膜ろ過浄水場建設
英国 イングランド ハンプトンロード浄水場向けセラミック膜を受注(8月)

その他の主な活動

- * 「メタウォーターレポート2022」発行(8月)
- * 一般向け、教員向けに研修や水循環の啓発活動を実施
 - ・ 一般財団法人経済広報センター主催「教員の民間企業研修」を実施(8月)
 - ・ 「メタウォーター打ち水大作戦2022」を実施(8月)

(参考)

- * 平成31年度採択B-DASHプロジェクトがガイドライン化
「単槽型硝化脱窒プロセスのICT・AI制御による高度処理技術」(5月18日広報発表) ※ 詳細はP10



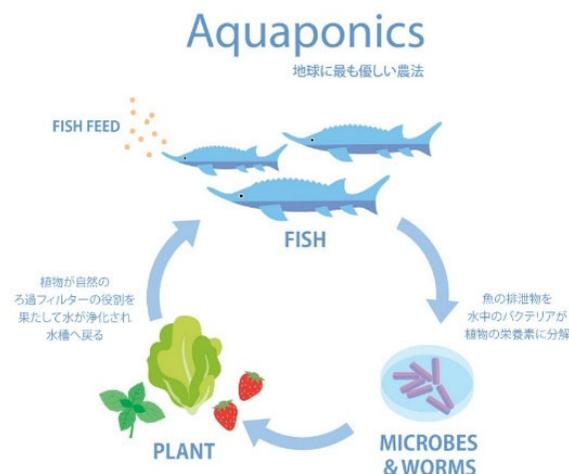
- ・ 魚と植物を同時に育てる循環型農業「アクアポニックス」事業における事業用プラントとなる「アクアポニックスパークおおふなと」が完成。
- ・ チョウザメの育成や野菜の生産を開始。2022年10月末～11月上旬より出荷予定。

環境保全型農業モデル

「アクアポニックス」

環境負荷を最小限に留め「養殖」と「農業」を推進

- ・ 水を循環利用
- ・ 農薬、化学肥料 無使用



ねらい

- ・ 上下水処理施設の未利用地の有効活用
- ・ 農業生産拠点化による地域社会の活性化
- ・ 環境保全型農業の推進

当社の目指すべき姿

- ・ 自治体・事業体ニーズに応える提案力強化
- ・ 上下水道施設における地域雇用やコミュニケーション拠点などの新しい付加価値の創出
- ・ 上下水道分野のみならず、異分野とのコラボレーションにより、社会全体のサステナビリティに貢献する施策の展開

事業用プラント: 大船渡市 大船渡浄化センター隣接地に建設



当社の目指すべき姿



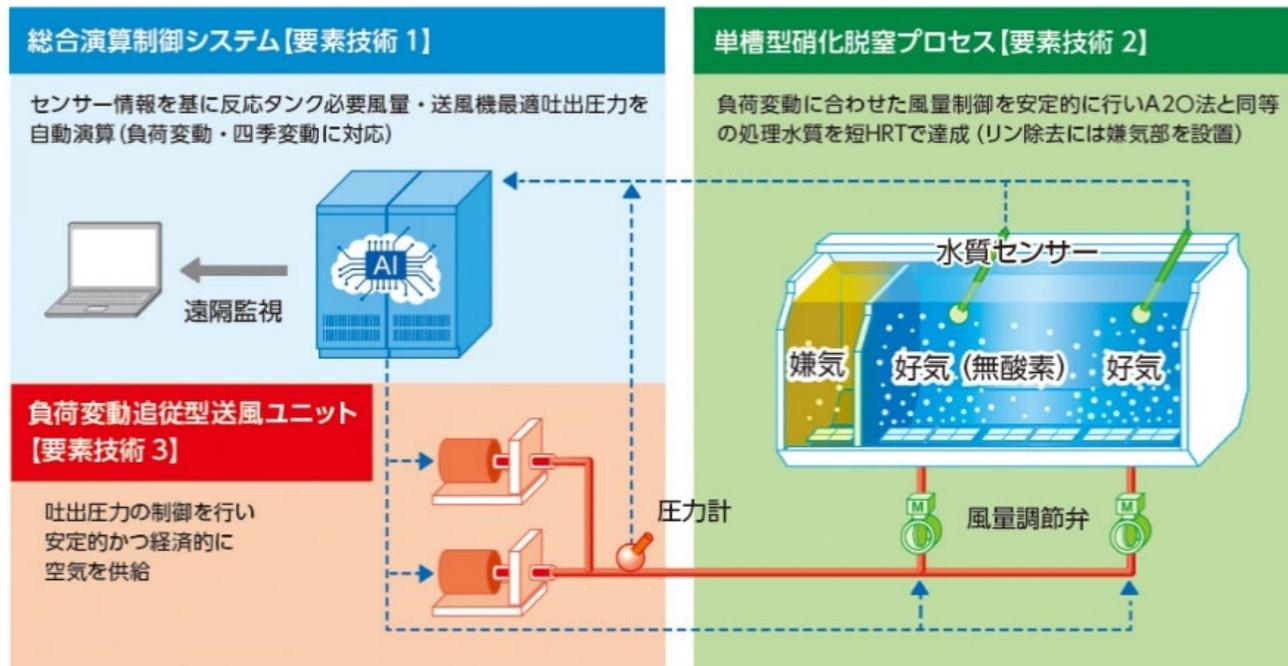
- ・地域ニーズに沿った水質の最適化
- ・人口減少による流入水量減少への対応
- ・GHG削減、省エネ
- ・建設費・維持管理費の削減

当社の取り組み事例

■平成31年度採択B-DASHプロジェクト「単槽型硝化脱窒プロセスのICT・AI制御による高度処理技術」の実用化

実施:メタウォーター・日本下水道事業団・町田市共同研究体 ※国土交通省 国土技術政策総合研究所からの委託研究により実施

当社は下水道革新的技術実証事業(B-DASHプロジェクト)において**8件の受託実績があり、実用化は7件目**



- ・既設躯体をそのまま活用可能
- ・従来の高度処理法(A2O法*1)より短い滞留時間、少ない運転電力量でA2O法と同等の処理水質を達成
- ・維持管理業務負担の軽減を実現

*1 嫌気無酸素好気法

本技術の詳細はこちらをご参照ください

<https://www.metawater.co.jp/news/2022/05/31b-dash.html>



目次

I 2023年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2023年3月期通期連結業績予想

III 2023年3月期第2四半期決算概要

'23/3期通期連結業績予想

■リスク要因

- ・原材料(鋼材、鋼管、半導体、樹脂など)価格上昇、サプライチェーン停滞および半導体不足による工事完成年度の期ズレなど外部環境要因に起因するリスクが顕在化。

■対策

- ・成長分野である海外事業において、北米を中心とした連結子会社が好調に推移しているほか、PPP事業では、本年4月から連結した「株式会社みずむすびマネジメントみやぎ」が順調に推移。
- ・設計前倒しによる必要部材・部品の早期手配、一括購入による在庫確保、工程管理の効率化経費削減などの諸施策を遂行。⇒2023/3期通期連結業績予想については変更なし。

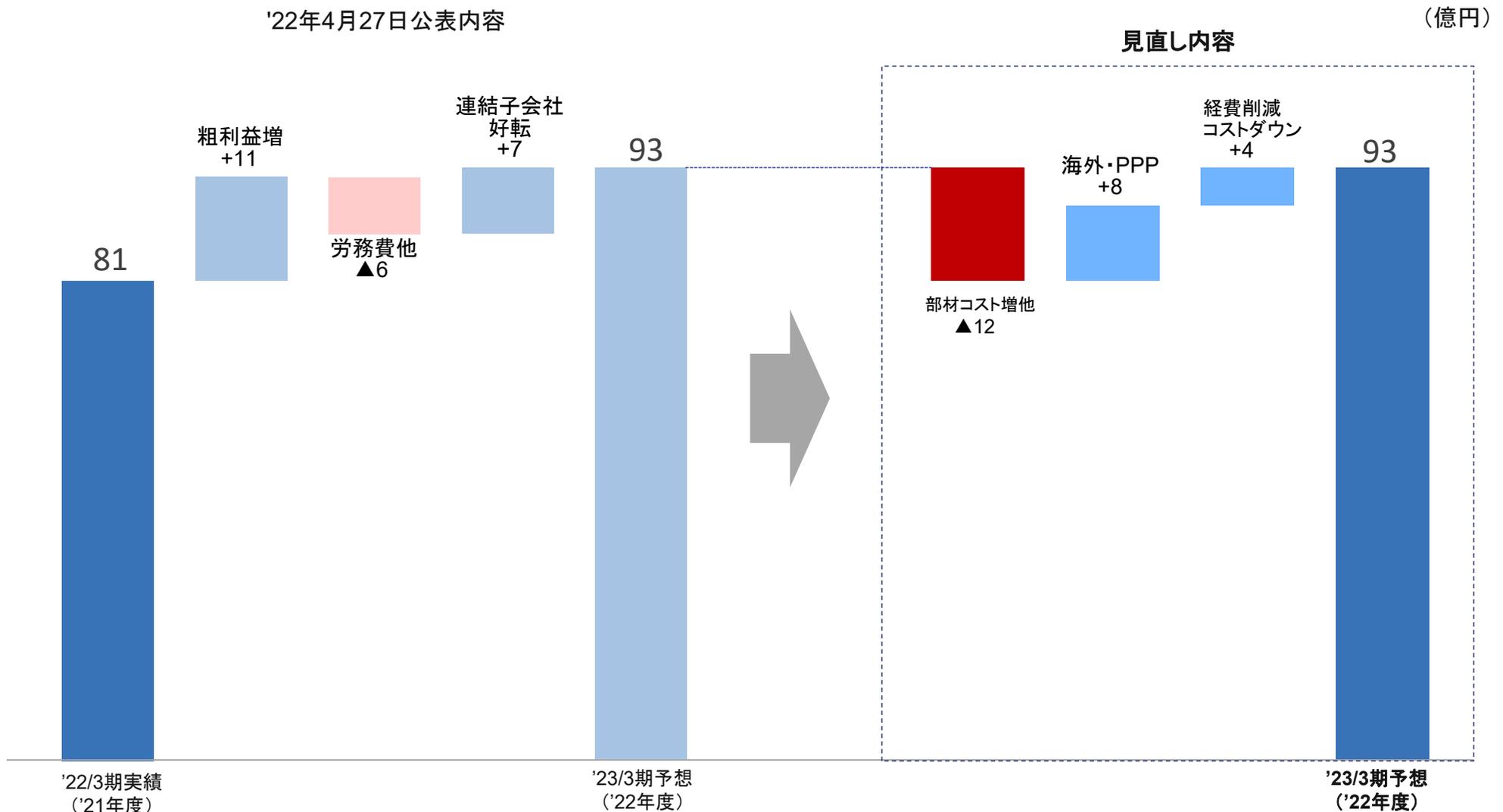
'23/3期通期連結業績予想

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)	年間配当 (円)	
'23/3期 予想 (4/27付)	1,400 前期比:▲123億円 ▲8.1%	1,490 前期比:+134億円 +9.9%	93 前期比:+12億円 +14.2%	93 前期比:+5億円 +6.3%	63 前期比:+1億円 +0.9%	144.53	20	20
	—	—	利益率: 6.2%	利益率: 6.2%	利益率: 4.2%	—	—	—
'22/3期 実績	1,523	1,356	81	88	62	143.39	20	20
	—	—	利益率: 6.0%	利益率: 6.5%	利益率: 4.6%	—	—	—

営業利益増減要因(対'22/3期実績比)

部材コスト上昇など外部要因による収益悪化リスクに対し、成長分野の収益改善、コストダウンの取り組みなどでカバー。⇒ '23/3期通期連結業績予想は変更なし。





目次

I 2023年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2023年3月期通期連結業績予想

III 2023年3月期第2四半期決算概要

Ⅲ 2023年3月期第2四半期決算概要

1 連結損益計算書

2 セグメント別概況

3 連結貸借対照表

4 連結キャッシュ・フローの状況

連結損益計算書

(億円)

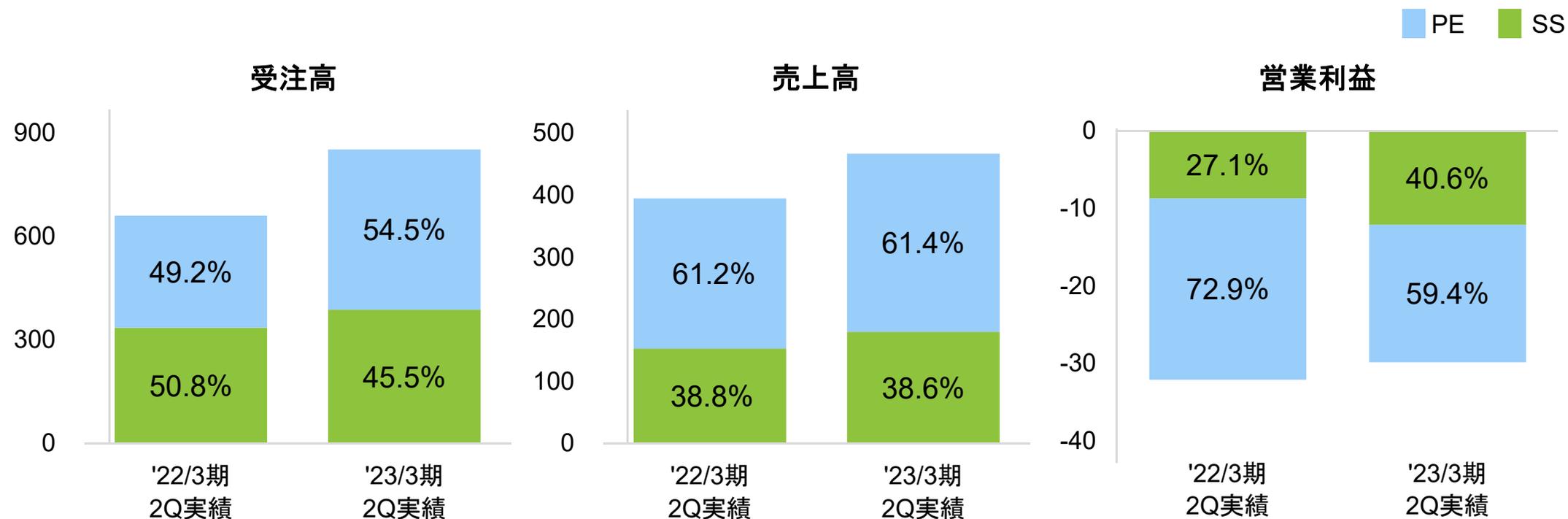
	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増 減
売 上 高	395	467	+72
営 業 利 益	-32	-30	+2
(営 業 利 益 率)	-8.1%	-6.4%	+1.7%
経 常 利 益	-31	-19	+12
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-24	-16	+8

* 10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

セグメント別概況（連結）

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増減	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増減	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	325	465	+140	242	287	+45	-23	-18	+6
サービスソリューション事業	336	388	+52	153	180	+27	-9	-12	▲3
合計	661	853	+192	395	467	+72	-32	-30	+2



セグメント別概況（連結）

（億円）

	受注高			売上高			営業利益		
	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増減	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増減	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	325	465	+140	242	287	+45	-23	-18	+6
サービスソリューション事業	336	388	+52	153	180	+27	-9	-12	▲3
合計	661	853	+192	395	467	+72	-32	-30	+2

プラントエンジニアリング事業

【受注高・受注残高】

受注高は、EPC事業、海外事業ともに前期を上回った。

受注残高は、前期を234億円上回った。（'22/3期2Q末 1,074億円 ⇒ '23/3期2Q末 1,308億円）

【売上高・営業利益】

・EPC事業は、売上高は前期を上回ったが、一部大型案件の粗利率の違いなどにより営業利益は前期を下回った。

・海外事業は、北米子会社の業績が順調に推移したことなどにより、売上高および営業利益ともに前期を上回った。

プラントエンジニアリング事業全体としては、売上高および営業利益ともに前期を上回った。

サービスソリューション事業

【受注高・受注残高】

受注高は、O&M事業、PPP事業ともに前期を上回った。

受注残高は、前期を52億円上回った。（'22/3期2Q末 886億円 ⇒ '23/3期2Q末 938億円）

【売上高・営業利益】

・O&M事業は、資源リサイクル分野の売上高が前期を下回った影響などにより売上高、営業利益ともに前期を下回った。

・PPP事業は、株式会社みずむすびマネジメントみやぎを連結したことなどにより、売上高および営業利益ともに前期を上回った。

サービスソリューション事業全体としては売上高は前期を上回ったが、営業利益は前期を下回った。

連結貸借対照表

(億円)

	'22/3期 期末実績	'23/3期 2Q末実績	増 減
現金・預金	213	325	+112
売上債権・契約資産	774	433	▲341
棚卸資産	80	138	+58
その他	23	45	+22
流動資産計	1,089	941	▲149
有形固定資産	45	55	+9
無形固定資産	105	119	+14
繰延税金資産	28	26	▲1
その他	63	64	+1
固定資産計	241	264	+22
総資産計	1,331	1,205	▲126

	'22/3期 期末実績	'23/3期 2Q末実績	増 減
買入債務	380	169	▲212
短期借入金 ^{*1} ₍₉₎	18	₍₉₎ 20	+2
契約負債	75	157	+82
その他	97	71	▲26
流動負債計	570	417	▲153
長期借入金 ^{*2} ₍₉₇₎	106	₍₁₁₆₎ 125	+18
その他	59	60	+1
固定負債計	165	185	+19
負債計	735	602	▲134
純資産計	595	603	+7
負債・純資産合計	1,331	1,205	▲126

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

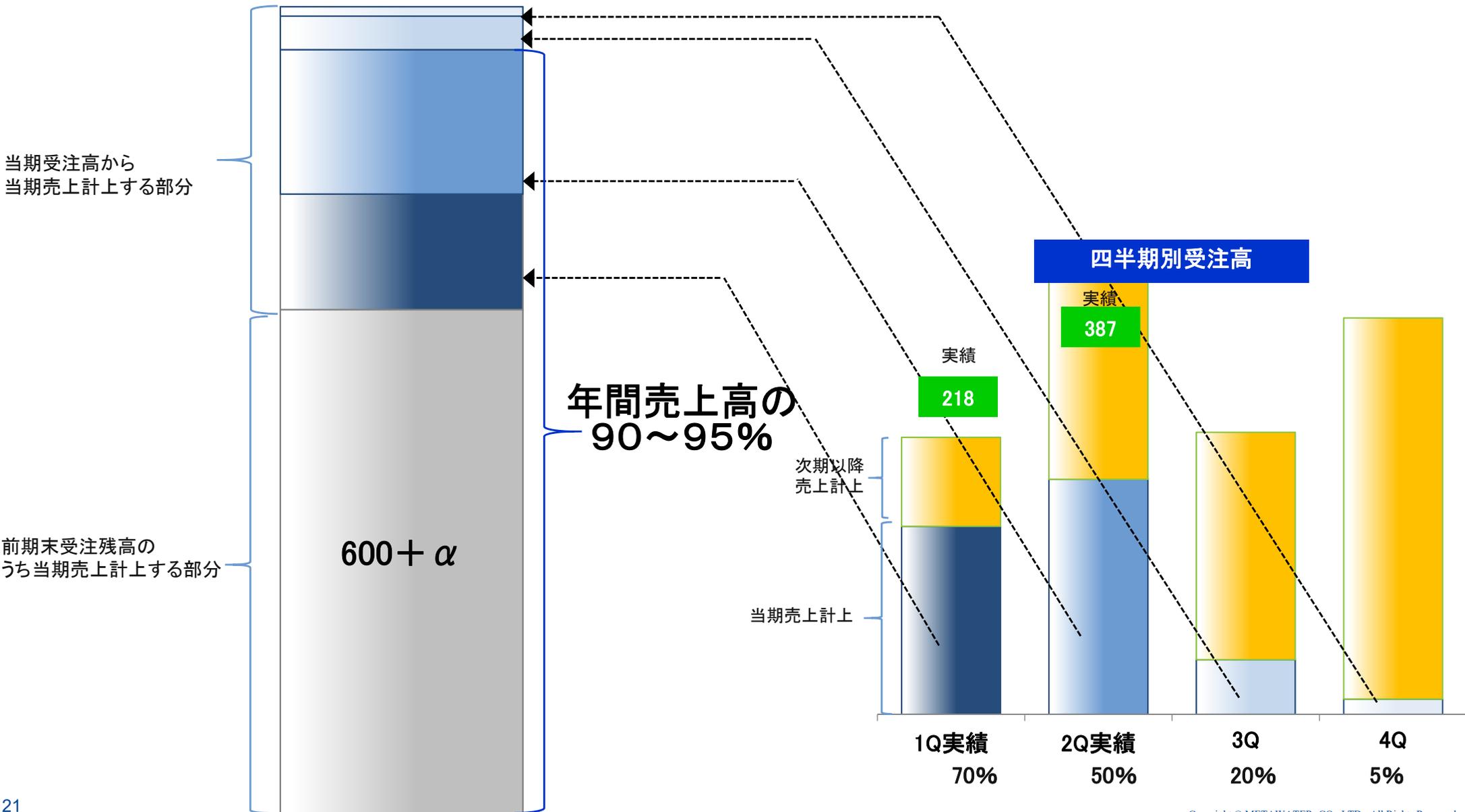
連結キャッシュ・フローの状況

(億円)

	'22/3期 2Q実績	'23/3期 2Q実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	180	206	+26
営業キャッシュ・フロー	126	103	▲23
投資キャッシュ・フロー	-24	-14	+10
フリー・キャッシュ・フロー	102	90	▲13
財務キャッシュ・フロー	-14	17	+31
現金・現金同等物に係る 換算差額等	2	6	+4
現金・現金同等物の期末残高	271	319	+48

23/3期の売上高構成について(単体)

23/3期売上高予測 1,080~1,100億円
(前年実績 1,023億円)



ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 コーポレートコミュニケーション室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp

補足資料 案件リスト

工事受注(10億円規模以上)

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	芝原浄水場及び場外施設電気計装設備更新工事	福島県	PE
2Q	南部汚泥処理プラント汚泥焼却電気設備再構築その3工事	東京都	PE
	南部汚泥処理プラント汚泥処理電気設備再構築その6工事	東京都	PE
	新河岸水再生センター汚泥焼却設備再構築その3工事	東京都	PE
	新河岸水再生センター汚泥脱水設備再構築その5工事	東京都	PE
	森ヶ崎水再生センター(東)反応槽機械設備再構築その4工事	東京都	PE
	新小岩ポンプ所受変電設備再構築工事	東京都	PE

受注(海外)

	案件名	国	セグメント
2Q	ハンプトンロード浄水場向け セラミック膜	英国	PE
	城北下水処理場向け オゾン発生システム	中国	PE